

(湖東地区) 地区の課題について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>課題1</p> <p>【役員数を減らす検討について】</p> <p>どこの地区も同じだと思うが、同じ人がいくつも役を持っているのは大変なことだと思う。同じような内容の役もあるので、整理・統合をして各地区の役員数を少しでも減らしていきたい。</p>	<p>(パートナーシップのまちづくり推進課長)</p> <p>区役員の負担軽減と担い手不足については昨年からの継続課題ということで、市においても今年の2月に対策プロジェクトを立ち上げ、現在進行している。役職についてお話いただいたので、そこに絞ってご説明すると、見直し事項として市からの依頼の整理、あと地域の必要に応じた役職の整理、こういった視点で考えていきたい。大きい区も小さい区も同じ様に役職をお願いしてきたが、果たしてそれでよいのか、区の必要性に応じて十年に対応していくべきではないのか、モデル区を募集し、応募いただいた区と議論を重ねて検討していきたい。</p> <p>市からの依頼事項については各課から提出させたものをリストアップしており、各課との個別協議を重ねているところなので、その結果を区長会の皆さんを通じて共有させていただきたい。</p>
<p>課題2</p> <p>【ごみステーションに出される可燃不可のごみについて】</p> <p>ごみステーションに出される可燃ごみの取扱いについて、よその地区の人が捨てていたり、分別できていない地区もある。昨年のお話で金山地区では、ごみ袋に名前が入っていない場合、役員さんが市の清掃センターに届けるという状況になっているので、各地区で統一して名前を書くような形にしていきたい。資源物についてはスーパーなどで回収をしているので、各地区の資源物は多少減っているのかなとは思っている。</p>	<p>(美サイクルセンター長)</p> <p>分別違反のごみについてだが、昨年分別の手引きを作成し、配布させていただいたり、外国籍の方向けの冊子の作成や、ごみの出し方をわかりやすく調べていただけるよう、ホームページに特設サイトを作成し、周知させていただいた。アパートの管理会社にも居住されている方にごみの分別の周知をお願いしているところである。一方、この取り組みの効果がなかなか見えてきていないのも現状としてあり、今後は、例えば分別違反で残されたごみも市で回収することができないか研究させていただいている。ただ、費用もかかることで、分別違反のごみが増えてしまう可能性や市で処理できないものへの対応も課題としてあるので、もう少しお時間をいただきたい。</p>

(湖東地区) 学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
【市からの説明】	<p>(教育長)</p> <p>市の考え方として1つ目に、学校の統廃合については、小規模校を大きい学校にくっつけるということは一切考えていないということである。たまたま行財政改革の中で統廃合の話をしたが、お金がなく維持できないからということではなく、子ども達の教育の質を出発点として、茅野市全体で教育をどのように考えていくかを一度皆さんと議論したい。2つ目が、子ども達の教育がどうなるかを視点として考えていきたいということ。小規模校の方が一人ひとりに手厚い支援ができるが、友達同士で切磋琢磨したり、例えばドッジボールでチームも組めなくなってしまうたり音楽会のあり方も変わってくる。大規模か小規模か、それが子どもにとってどうなのか、地域の伝統を守り引き継いで、10年先20年先の茅野市や日本をの未来を考える子どもを育てていくために考えていきたい。3つ目が、では方法をどうしていくかということで、約1年かけて学区ごとご意見を伺いたいと考えている。地域の意見、世帯の意見、様々なものがあると思うので、じっくりお話を聞く中で、素案が作れたらよいと考えている。方向性を出すのには約2年くらい必要だと考えている。</p> <p>(市長)</p> <p>例えば、小学校は市内に9校あるが、中学校は4校である。ということは、小学校も数的には4校あれば大丈夫ということにはなる。これが良いか悪いかはまた別の話で、1つのやり方としてお示ししている。先ほど教育長が言ったように、市としても子どもが少ない地区にこの問題を押し付けるのではなく、茅野市全体として何が最良なのかを考えていきたい。それぞれの地区で小学校は誇りであり、象徴的なものであるということをよく認識しているので、皆さんの忌憚のないご意見を伺いたい。</p>
学校も減らすなら保育園も減るのか	<p>(市長)</p> <p>保育園は近場にあった方が良さだろうということで、今のところは減らす議論はしていない。また、学校も減らすとは断言していない。湖東小学校は生徒が150人以上いるから良かったねということではなく、50人になってしまう小学校もあるので、茅野市全体のこととして皆で考えましようと言っている。</p>

(湖東地区) 学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>湖東地区には、笹原保育園と湖東保育園があり、すでに笹原保育園は廃園になると言われ検討した結果、野あそび保育という取り組みをしている内田先生が引き受けてくださり、今も続いている。茅野市立笹原保育園の時は園児が5名だったが、野あそび保育という外遊びをたくさんする特色のある保育になったことで、定員オーバーとなっている状態。といっても今年湖東保育園に進む子は1人だけで、あとは諏訪市や岡谷市から野あそび保育を求めて人が集まっている状態である。この湖東笹原の成功例を小学校再編の際にも活かし、何か特色のある小学校を作り、その学校に行きたいから移住するというふうになったら茅野市の子どもも増えると思うので、ぜひお願いしたい。</p>	<p>(市長) 学校を残すという視点でいくと、そういう対応は十分にあると思う。小人数の学校は1校あっても良いかなということは論じられると思うので、そういった考えも参考にさせていただきたい。一方で、先ほど教育長からもお話があったように我々が考えているのは教育の質である。学校を残す話と、教育の質の話は別々に考えていかなくてはならないので、また具体的に話す段階でご意見をいただけたらと思う。</p>

(湖東地区) 縄文文化の継承について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>茅野市民と縄文文化の関わりをこれからも強く持ってほしい。コロナ禍で、また予算もない中でとは思いますが、縄文ライフフェスティバル、縄文祭り、縄文マラソンが終わってしまった。茅野市には、縄文時代の国宝が6のうちの2つもある。湖東地区には中ツ原遺跡という国宝が出土した遺跡がある。地域の誇り、世界に誇れるものである。富士見町では考古館の館長が地域縄文クラブとあって、部活動を学校の外で民間主導で行いたいという話もある。茅野市では、縄文地域教育をかなり前から取り組んでいるが、郷土愛なり、地域をよく知ると、たとえ進学等で市外に出てしまっても、戻ってくるきっかけになるだろうし、地域外の人にとってもより茅野市に関心をもって移住するきっかけにもなると思う。</p>	<p>(市長) 私は縄文を軽く扱っているつもりではなく、むしろ重要視している。尖石遺跡は日本で一番古い史跡だが、その整備を10年間何もしてこなかったのが、今再整備計画を10年計画で立てている。確かにイベントは中止させていただいたが、イベントをやれば縄文を大切にしているとは私たちは思っていない。今一番重点的にやっているのは、本質を磨くということである。例えば縄文祭りの中で縄文文化賞をやっている、これは若手の研究員の登竜門的な形で世界に広く認められているものである。この事業を大事にし、核とした仕組みを作ろうとしているところ。また、ヨーロッパでは縄文は非常に評価が高く、県知事のフランス訪問に職員が帯同した際にフランスのルーヴル美術館で茅野市のプレゼンをし、縄文のビーナスと仮面の女神のレプリカを市役所や大使館に置いてもらっている。そうすると、フランスの美術館でレプリカの販売をしたいなどという問合せがあつたりして形にもなってきた。なので、決して縄文を疎かにしているということではないので、ご理解いただきたい。</p> <p>(教育長) 私も縄文が大好きで、市民館で子ども達の縄文アート展が行われているが、過去最高の品数だった。また、東京都府中市との学校交流が今年から始まったが、その中で尖石考古館へ来て体験学習をしたり、北部中学校の生徒がガイドをしたりと、中学生にとってもすごく自信や誇りとなり縄文を深めた良い交流ができた。縄文市民科という茅野市独自の授業があるが、これもコロナで衰えたわけではなく、考古館から約30回で前講座をして、かなり学習が進んできている。私達は、縄文の根っこの精神は何か、それに近づいていく学習がしたいと考えているので応援していただきたい。</p>
<p>遺跡の真ん中を通っている道路についての話し合いもぜひお願いしたい。</p>	<p>(市長) もちろん念頭に置いて再整備計画を立てている。そういった整備計画等をしっかりと立てることが、縄文文化を守り継承するために重要だと考えている。</p>

(湖東地区) 消防団再編計画について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>湖東分団は来年から地区を3部に分けてスタートすることが決まった。私は中区だが、屯所の積載車や機材などの置き場がなく、引き受け手がなくて困っている。また、少子化により団員数が減る中で3部制となると巡視の行動範囲も増えていき、区の行事や出払いなど残った団員の負担が非常に増えていくのではと危惧している。今、消防団の勧誘に行ってもなかなか本人と合わせてもらえない家も多く、残った団員の気持ちを最優先に考えて欲しいと分団の方に文書を出したこともあった。今の団員が先行きが不透明なままで、消防団が嫌だとなれば、退団して自衛消防のような形でやっていくのがベストなのか、と考えたりもしている。残された人にとってやった損にならないようにしてほしいし、自衛消防になった場合でも、今後の消防団活動に対して支給される配備車両が使えるのかどうか。いずれにしても今の状態では非常に疑問が残るので、その辺りも理解していただき、アドバイスが欲しい。</p>	<p>(消防署長) 消防団の総合計画が、持続可能な消防団とするため部を統合し、団員数を持続可能な定数にするために協議しているものである。その中で、各地区で補っていただき、大きな部にしていただき、消防団のない区も負担できるような形でまとめているので、ご協力をお願いしたい。</p>
<p>これは必ずやらなくてはいけないものだと思っ進めてはいる。その中で色々な問題もちろんあり、今見えていない問題もあると思うが、それをどう解決していくかは1年1年更新をし皆さんで協力しながら消防団を守っていくことだと思う。今時点で守れるということではなく、守るために再編が行われているのだと感じている。問題点を市にどう上げていくのかを考え、対処しなくてはならないと思っている。</p>	<p>(市長) 消防団の再編成については必ず成功な形にし、またそれを区・自治会についても考えていきたい。 車両についてはすべて市でみていくこととなる。その代わりに屯所などは当面使っていただくこととなるが、老朽化の問題も出てくるので、そこも考えていかななくてはならないと認識している。また、車両については従来は火を消すというのがメインの機能だったが、大災害の時は人命救助に適した車両、或いは物資をお届けする車両など色々なものがあるようなので、各種揃えていきたいと考えている。そして計画の中では今の団員が40才で辞められるような計画を考えているので、不安や心配はあるかと思うができるだけ持続可能な形にしていきたいと思っている。ご理解をお願いしたい。</p>

(湖東地区) のらぎあについて

意見要旨	説明・回答要旨
<p>ボランティアの会で、90歳以上の一人暮らしの方が「のらぎあ」が予約が取れなくて困っているという切実な声を聞いた。一週間前から予約ができるが、行きは時間がわかっているので予約しても帰りは時間が見込めないで、治療院からの帰りはタクシーで帰ったとのこと。タクシー代が5,000円もかかってしまって、これでは1週間に一度の治療に行くことができないという話をあちこちから聞く。先日福祉推進委員会の時に、「のらぎあ」が始まって1年で、色んな統計を取る中で、予約が成立しない割合が1割から2割に増えたと伺った。その中には2、3時間待ってもタクシー代が払えないから仕方無く予約した方もいるはずなので、2割以上になると思う。私も80歳目の前なので、いつ免許を返納しなくてはいけなくなるか分からない中で非常に切実な問題。</p> <p>富士見町で乗り合いを実施している話を聞いた。すずらん号というのが走っているそうだが、試行錯誤しつつ上手くいっているようである。茅野市と富士見町は全く違うので同じに論じる事はできないと思うが、富士見町の場合はもともとあったバス路線を基にして、3方向から町の中心地に集まってくるダイヤが午前に行きが3便、午後2便、中心地から戻るダイヤが午前2便、午後4便あるそうである。ダイヤがあるので大体の見当がつくし、バス亭のように茅野市でいう仮想停留所があるらしい。お年寄りからするとやはりダイヤがあると嬉しいと強くおっしゃっている。茅野市にも午前、午後の通学通勤バスがあるとは伺ったが、昼間そういった運行ができないものか。</p>	<p>(市長)</p> <p>以前「ビーナちゃんバス」があったが、あまり利用していただけでならず、運行に年間約1億円かけていた。もっと多くの方に利用していただきたいということで、先ほどの通学通勤バスを5路線走らせている。多くは中学生や高校生の皆さまに利用いただいているところで、これを補完する意味合いで「のらぎあ」が動いているという形になっている。バスと「のらぎあ」で今1億5000万くらいかけているが、我々はこのままでよいとは思っておらず、より使いやすいようにしていくため、今おっしゃったように通学通勤バスの日中版の検討をしているところである。</p> <p>(企画部長)</p> <p>「のらぎあ」の予約が取りづらいのはご指摘のとおりで、4回に1回は取れない状況の日がある。月、水、金が非常に混んでいる。そして、11月1日からプログラムを変更して、より多くの予約が取れるように若干改善をしている。しかし、それでも100%ではない。「のらぎあ」は、大人数を同じ目的地に運ぶというものには適していない。今、「のらぎあ」を運行する中で、利用者の皆さんの動きが見えてきた。なので、移動者が多い時間に「のらぎあ」以外のバスを走らせることで、「のらぎあ」の負担が減り、予約が取りやすくなるということも考えていかななくてはいけない。いずれにしても、お金がかかることであるので、すぐにとはいかないが、来年度を目安に改善を図ることも検討しているのでご理解いただきたい。</p> <p>(市長)</p> <p>なかなか進まないと思われているだろうが、「のらぎあ」自体は即時配車もドアツードアもできる。タクシー会社さんとの話し合いの中で今の形になっている。改善についても費用がかかるので、そういったことを確実に実行していくためにも行財政改革をして、必要なお金をお金をかけるという形で進めていきたい。</p>